

平成 29 年 12 月 1 日
(2017 年)

保護者の皆さまへ

吹田市立吹田第一小学校
校長 藤原博史

平成 29 年度 全国学力・学習状況調査の分析について

本年度、6年生を対象として「平成29年度全国学力・学習状況調査」を実施し、9月上旬に個人ごとの結果をお返ししました。また吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しております。

『平成29年度 全国学力・学習状況調査』とは・・・

◇教科に関する調査（国語・算数）

- ・主として「知識」に関する内容 ⇒ 学習における基礎基本的な力を調べます。
- ・主として「活用」に関する内容 ⇒ 知識技能を実生活の様々な場面に活用する力を調べます。

◆生活習慣や学習環境等に関する調査（質問紙調査）

- ・学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面に関するアンケート調査です。

この調査は小学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語と算数に限られ、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことをまず踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えております。

対象となった6年生には、よりきめ細かな指導ができるよう取り組みを進めるとともに、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導法の工夫改善も図ってまいります。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にして頂きますようお願いいたします。

1. 教科に関する調査結果の分析

●国語A

《概要》

結果分布は正答数の多い側に分布し、平均正答率は全国値をやや下回る結果となった。しかし、無解答率はすべての問題で全国値を下回り、ほとんどの問題に対して最後まで取り組み、回答しようとする姿勢が見られた。

《各領域における成果と課題》

話すこと・聞くこと

- ・この領域では、互いの話を聞き、考えの共通点や相違点を整理しながら、進行に沿って話し合えるかという出題であったが、全国値をやや下回った。
- ・無解答者はいなかった。

書くこと

- ・目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして詳しく書くという問題で正答率は高く、全国値を上回っていた。
- ・手紙の構成を理解し、後付けを書くという問題は、全国値を下回っていた。
- ・無解答者はいなかった。

読むこと

- ・「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の問題にもなっている俳句とことわざの問題2問と、目的に応じて、文章の中から必要な情報を見つけて読む問題1問の出題であったが、正答率は全国値を下回る問題が多かった。
- ・無解答者はいなかった。

伝統的言語文化と国語の特質に関する事項

- ・漢字では読み書き3問ずつ、計6問出題されていたが、漢字を読む問題で3問中2問の正答率が全国値をやや上回っていた。「事務室」を読む問題で全国値をやや下回っていた。無解答者はいなかった。
- ・漢字を書く問題は3問出題されたが、「希望」と「対象」を書く問題で、全国値を下回っており、この2問では無解答者がいた。
- ・どちらかという、書く方が苦手で、特に同音異義語の理解に課題があると見られる。

●国語 B

《概要》

結果分布は正答数のやや多い側に分布するが、平均正答率は全国値を下回る結果となった。無解答の問題が半数あった。

《各領域における成果と課題》

話すこと・聞くこと

- ・3問（選択問題1問、記述問題2問）の出題中すべてで、全国値を下回った。
- ・話し合いの様子を観点に沿って整理し、客観的にまとめる課題が苦手なようである。特に、記述式の、二つ以上の情報を取り入れ、条件に応じて文章化する問題で、条件不足の解答が多く見受けられた。

書くこと

- ・5問（選択問題2問、記述問題3問）の出題中すべてで、全国値を下回った。
- ・文と文のつながりを考えながら、文章の全体構成を把握し、何を伝えるための文章なのかを把握することに課題がある。また、短い文章がどんな内容なのかをつかむことも苦手なようである。

読むこと

- ・3問（選択問題が2問、記述問題が1問）中3問で全国値をやや下回っていた。
- ・「読むことの問題」は、国語 B の最後の問題であったが、無解答率は全国値を下回った。・自分の考えを広げたり深めたりするための発言の意図をとらえる問題では、全国的にも正答率がかなり低く、本校においても同様に正答率が低かった

伝統的言語文化と国語の特質に関する事項 * 出題なし

●算数 A

《概要》

結果分布は正答数のやや少ない側に分布し、平均正答率は全国値を下回る結果となった。また、無解答率を見るとほとんどの問題が0%で、全国平均を下回った。

《各領域における成果と課題》

数と計算

- ・正答率は、8問中7問で全国値を上回っている。
- ・正答率が下回った1問は、小数の乗法の性質を利用した計算方法を考える問題であった。問題を説明する図の意図を理解することができていなかったと考えられる。
- ・計算問題については、よくできていた。

量と測定

- ・任意単位によって測定するという意味を理解できていなかったと考えられる。問題文が長く、問題の意図を読み取ることができなかった。
- ・平行四辺形と三角形の面積との関係を考える問題については、全国値より上回った。

図形

- ・2問とも全国値をやや下回った。
- ・五角形の内角を求める問題では、問題の見た目で見ただけで解答してしまったように感じられる。補助線を引いて考えるということができなかったのではないかと。また、一周が 360° という

ことを覚えていない児童も多かったと考えられる。

数量関係

- ・ 3問中2問、全国値より下回った。
- ・ 二次元表から必要な情報を読み取ることができていなかったと思われる。

●算数B

《概要》

平均正答率は全国値とほぼ同じであった。領域をまたぐ複合問題や文章読解に課題が見られた。多くの問題で無解答があった。

《各領域における成果と課題》

数と計算

- ・ 全国値と比較して正答率はやや下回っていた。
- ・ 特に2けたの引き算の計算のきまりを説明する問題が、全国値を下回った。

量と測定

- ・ 全国値と比較して正答率は下回っていた。
- ・ 工夫して平均を求める問題は、全国値をやや上回っていた。

図形

- ・ 数量関係も併せて問われる問題ができていなかった。

数量関係

- ・ 全国値と比較して無解答率は下回るが、正答率に結びつかなかった。
- ・ 数量関係のみの問題では、全国値を上回るものの、数と計算も併せての問題となると、全国値を下回った。

2. 生活習慣や学習環境等に関する調査の傾向

●生活に関するアンケート

《生活について》

- ・ 朝食の摂取はできているが、全国値を下回る結果であった。「毎日食べていない」と回答している子の存在が気になる。
- ・ 全国値と同様に、起床時刻に比べ就寝時刻がやや不規則な傾向にある。十分な睡眠時間の確保ができているかは不明であるが、全国よりは同じ時刻に起床、就寝をしている傾向にある。朝食や睡眠の質についての調査も今後検討が必要と考える。
- ・ また、昨年度までの結果と同様にテレビやゲームを長時間（1日4時間以上）使用する児童が多く、良質な睡眠の確保や家庭学習に支障をきたす可能性があると思われる。

《自己肯定感について》

- ・ 「自分にはよいところがある」と答えた児童が22%だったことや、夢や目標を持っている児童も全国値を下回ることから、自己肯定感が低い児童が多いと言える。また「どちらかといえば当てはまる」を含めると全国値とほぼ変わらないことから、自分からはっきりと言えないという控えめな学年の特徴も数字として表れている。

《学習について》

- ・ 86%が「学校に行くのが楽しい」、98%が「学校で友達に会うのは楽しい」と答えている。しかし、「みんなで協力して何かをやりとげ、うれしかったことがある」という項目では、全国値と比べると「当てはまらない」という回答が多かった。
- ・ 「学校で好きな授業がある」「家で学校の宿題をしている」と大半が答えているものの、家で授業の復習は約70%が「していない」と回答しており、家庭での自主学習においては消極的と言える。

《地域・社会への関心について》

- ・ 「地域の行事に参加している」「地域や社会で起きている問題や出来事に関心があるか」の項目では、約半分しか「当てはまる」と回答していない。地域によって子どもが参加する行事を行っているところにバラつきがあるなど地域の特性が出ているのではないかと

ランティア活動に参加したことがある児童も少なかった。

- ・また、家庭の購読状況にもよるが、新聞は「ほとんど読まない」或いは「全く読まない」と82%が回答している。テレビやインターネットのニュースを見るのは68%であったが、全国値よりも約10%低いので、地域・社会でのできごとや将来については関心が低いことが分かる。ニュースや新聞からの情報または読書を通じて、世界に目を向けることや自分の知らない世界を経験してみたい、といったようにつながらない現状がある。
- ・上記と同様に、「外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知ったりしてみたい」や「将来、外国へ留学したり、国際的な仕事に就いたりしてみたい」という質問に対して肯定的な回答をした児童の割合は全国値をやや下回った。

●学校生活に関するアンケート

《学校生活について》

- ・「人の役に立つ人間になりたい」「いじめはどんな理由があってもいけない」と思う児童は90%超えの結果で、昨年までの結果と変わらなかった。
- ・また「学校のきまりを守っているか」「友達との約束を守っているか」の質問に対して肯定的な回答をした児童の割合も90%を超える回答であった。

《総合やこれまでの学習について》

- ・「自分で課題を立てて情報を集め整理し、調べたことを発表するなどの活動に取り組んでいるか」との質問に対して、はっきりと「取り組んでいる」と回答している児童がかなり少なく、「どちらかという」との回答に流れている児童が多いということも自信のなさに繋がっているのか。

●学習に関する質問

《国語》

- ・国語は将来役に立つ、読書も好きだと考える児童が多い。一方、国語が好き、国語が大切だと考えている児童が全国値を下回っている。
- ・自分の考えを話したり、書いたりする時に上手く伝わるよう工夫していると答える児童が多い。

《算数》

- ・算数の勉強は好きと答える児童が多い。問題をよりよい方法で解こうとする意欲のある児童も多い。しかし、新しい問題や解き方がわからない問題に対して諦めずに解こうとする児童が少ないのが特徴である。

3. 今後の取り組み

国語においては、漢字を書くことなど、日常的に反復練習を重ねて定着率を上げるとともに、同音異義語や漢字の使い方を練習できるような宿題プリント等を活用した取り組みを進めます。また、文章を書くことでは思いついたことをそのまま記述するのではなく、書こうとすることを箇条書き等のメモにし、組み立てを構想してから解答にのぞむように、国語だけでなく全ての教科学習全般を通して書く力をつけていきます。

算数については、問題解決学習に継続的に取り組んできたことで、難しい問題にも自分なりに考えて解こうとする姿勢が強く見られるようになっていきます。今後も問題解決学習やICT機器などを活用した授業改善に引き続き取り組みます。

一方で、長い問題文や情報量が多いことから何を問われているのかがつかめなかったり、集中力が続かなくなることへの懸念が伺われます。これまでと同様に、授業時間だけでなく朝学習や宿題など授業以外の時間も活用して基礎的なスキルの向上・定着を図るとともに、普段からB問題のような多様な問題への対応力を養うよう、取り組みを進めてまいります。

昨年度の結果報告では、「学習面だけでなく生活面についてもご家庭で話を聞いていただき、お子さんをしっかりと支えていただいたことが、今年度の自己肯定感の高まりとして現れた」と報告をさせていただきましたが、今年度の結果では異なる報告となっています。それぞれの学年の特徴もありますが、引き続き、学習面や生活面についてゆっくりとお子さんの話を聞いていただき、温かいアドバイスや励ましの言葉をお願いいたします。